



森ボラ 通信

第141号 2014年2月20日発行
NPO法人北海道森林ボランティア協会

URL <http://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6 ラルズビル3F

Tel. (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrin2002@nifty.com

トピックス

◆ 北海道社会貢献賞受賞祝賀会模様

祝賀会と云っても気心の知れたヘルメット仲間の集いだからと気軽に出席したのですが、日頃から“名ばかり理事長”と自称する横山さんがご夫人同伴で出席され、その本気度が伝わってきて身の引き締まる思いに包まれました。しかし会運営スタッフの軽妙な演出のおかげで、その緊張が徐々にほぐれていったのです。まず開会の冒頭に柴田久子さんの祝電が披露されました。

『・・・高い技術力と豊かなアイデア、そしてユーモア。強い個性の持主が集まっているけれど、



ぶつかることなく絶妙に調和している。

一人一人が自然に役割を見つけ伸び伸びと力を発揮する。

る。・・・』と見事なまでに森ボラ仲間の活動イメージを表わした件を読んで雰囲気盛り上げました。

酒井さんのプレゼンも使用したスライドも簡潔、丁寧で退屈させませんでしたし、ご来賓の紹介もテキパキと済ましておりました。会歌『幾星霜』の紹介も押し付けがましくもなく、サラリと流したのも来賓の皆さんには好感を与えたようです。

最後に高野さんは「我々は社会貢献で表彰されたが、もう一つ大きく貢献しているものがあります。それは妻の夫源病予防です。」と締めくくり大いに会場を沸かせました。森ボラへの熱い思いを込めた祝電はさらに続くので紹介しておきます。

『・・・在籍中は若輩の私に同じ目の高さで仲間として接していただきありがとうございました。お一人お一人と交わした会話や笑顔が北海道の木や森の姿と共に、私の中に年輪のように刻まれています。皆さんは私の憧れです。皆さんのように優しく楽しく年を重ねてゆきたいと思っています。これからも元気で活躍ください。北海道の木に森に皆さんの記憶はきっと刻まれていくことでしょう・・・。 てんとう虫ファーム(長野県伊那市)・柴田久子』。

我ら森ボラメンバーの高齢化は、確実に進んで体力はそれだけ低下していくでしょうが、気力や智力はまだまだ意気軒昂であり、このたびの受賞を契機にさらに飛躍するだろうと実感した祝賀会でありました。(文・吉本)

■ 活動報告

◆ 冬期セミナー報告 (2014年01月23日・リンケージプラザ)

「Earth Song ～かけがえのない地球の詩～」

講演者：寺沢孝毅氏 (守りたい生命プロジェクト代表)

天売島は西側が高い崖で、東側に向かいなだらかに傾斜している地形で人口350人は東の海岸線に住み、西側の崖は海鳥たちの繁殖地となっている。寺沢氏は、1982年天売小学校に教諭として赴任されウミガラス(オロロン鳥)など海鳥の保護活動を始められた。

天売島はオロロン鳥の島として有名で、多いときには4万羽いたのが2010年には19羽にまで激減してしまった。天売島に赴任して10年経過した1992年に退職され、フリーの自然写真家として天売島に住み着く事になった。天売島で見られる海鳥はウミガラス・ウトウ・ケイマフリなど8種があり、19羽まで減少したウミガラスは、繁殖地域にデコイを置き、鳴き声を流すなどの対策により多少は増えてきつつあるとのこと。また、赤い足が特徴のケイマフリも減っている。ケイマフリは世界でオホーツク海周辺にしか生息しておらず、その中でも天売島には455羽とそれでも他の地域よりは多く生息している。また、海の中を見るとエゾオコゼなどの魚やアワビなどの他に暖流が流れている事もあり、暖かい海に棲む魚を見ることが出来る。この様に小さな島ではあるが非常に多様性に富んだ素晴らしい自然が見られる島でもある。



北海道全体を見ると周囲の海には暖流も寒流も流れ、オホーツク海にはアムール河口でつくられた流氷がサハリンの東に沿って南下し流れてくる。流氷の下にはアイソアルジー(植物プランクトン)が繁殖、これを求めてオキアミなどの動物プランクトンが繁殖し、さらにこれを餌とするクジラまでもが姿を見せる。一見何も無いような流氷であるが、オホーツク海や更に北太平洋の豊かさは流氷によってもたらされているところが大きい。近年の流氷の減少は、この豊かな海の行く末が心配である。

天売島から北へ500kmにあるサハリンのチューレニ島に行ったがここにはウミガラスが70万羽、オットセイも海岸線を埋め尽くすほど棲んでいる。また、このところ北極に数回行っている。スバル諸島へはホッキョクグマを探しに行ったが、現地の人のお話では温暖化により北極海の流氷は確実に減ってきているとのこと。ホッキョクグマは流氷に乗って狩りをし、アザラシなどを餌としているが流氷が少なくなると生息が難しくなる。ホッキョクグマがアザラシの毛皮をきれいに剥ぎ、毛皮の内側に着いている脂肪を懸命に食べている写真が映し出されたが、ホッキョクグマの命を繋ぐことへの執着を見る思いがした。「寒さは小さな命を生み出す装置」との言葉で締めくくられたが、鳥たちにも寒さが必要であると同時に、我々人間にとっても大切なことである。

今回は、素晴らしい映像は勿論、臨場感溢れるサウンド付での講演であった。次は異なったテーマでお聞きしたいものである。(文・萩田)

なお、寺沢先生の活動等は下記のホームページで見ることが出来ます。

<http://www.wildlife-p.com>

◆ FM放送で北海道森林ボランティア協会を紹介

1月25日(土)午後4時からFMノースウェイブのミュージック・オン・ザ・アースラジオ番組に市山が出演しました。このお話のきっかけはきたネットのスタッフの方からラジオで協会の紹介が出来る番組があるのでやってみませんかとのお誘いがあり、協会のPRならと思い出演しましたが、パーソナリティはF-ファイブでお馴染みのヒロ福地さんが軽妙な対応でアッと云う間の10分間で

した。

そのやり取りは北海道森林ボランティア協会の生い立ちや主な活動を紹介しましたが、年間130日の活動を延べ参加人数1,600人でこなしていることに驚かれ、元気高齢者達のパワーで森林保全に大きな貢献をしているボランティアグループとして更なる環境向上に繋げて欲しいとヒロさんからエールを送られました。

この放送を通して我々が環境を考える上で大切な一つとして“次の世代の子供たちに森が持っている役目（保安、水土保全、環境浄化、生物多様性等）の機能を現場で体験してもらい、樹とはこんなに素晴らしい生き物だと感じてくれるような活動をして行きたい”。そして森が好きで健康の維持管理をしたい方は協会ホームページに北海道森林ボランティア協会または森ボラでアクセスをお待ちしています。と締め括って緊張した生放送は終わりました。

（文・事務局）



◆安全講習会（1月23日リンケージプラザにて座学）

今年の座学は北海道森と緑の会から国土緑化推進機構編「みどりのボランティア安全手帳」をいただき本とパワーポイントで勉強しました。とくに「森は危険なんだと尻込みすることはありません。危険を避けるための知識や経験を身につければいいのです」の巻頭の一行は大事なことです。また緊急連絡先や安全対策も確認しました。



1月27日澄川環境林にて実技(安全な作業)

鋸とナタによる木の伐り方を学びました。特に受け口の作り方 追い口の作り方 ツルの残し方 懸り木の処理方法を学びました。昼からは深い雪をラッセルしてA-1に行き、すでに選木してある木の中の胸高直径20cm以下の細い木を手切りしました。梢に蔓が絡みどうしても倒れない木はマークし次回チルホールにて牽引します。（文・酒井）

◆チェーンソー講習に参加して

1月28、29日北広島市大曲コマツ教習所(株)北海道センターにて、特別教育「伐木等の業務(チェーンソー取扱い)

(70cm以上)」を受講してきました。今まで森ボラの活動場所では見よう見まねで何度か体験しましたが、今回機会を得て講習を受け、改めて作業の安全や機器の操作について認識を新たにしました。受講者は林業作業員、近郊のゴルフ場関係者それに札幌市職員など22名。

1日目はテキストやパワーポイントを使用した座学で、関係法令、伐木作業の注意事項・作業手順、チェーンソーの構造・取扱い・点検整備・目立て、振動障害の原因・予防、健康診断などについて8時間の講習を受けて最後は筆記試験20問です。



久しぶりの講義を受けふらふらになりながらなんとか終了。

2日目は写真にあるように実習室において、2班に分かれ実際の機器・木材を相手にチェーンソーの操作、取り扱い、整備、目立て等を学びました。室内とはいえ室温10℃ほどで大変寒く控室で温まりながら交代で8時間の講習を受けました。一人の操作時間は各3,4回計50分程度ですが他の人の作業手順を見て、質問しながら自分の順番を待ち、講習の終了後は後片付けそして修了証の交付、最後は同志のような雰囲気となりました。今後は作業現場でこの体験を踏まえ活動していきたいと思っています。このような機会を与えていただいた森ボラ協会の皆様に感謝しています。ありがとうございました。(文・樫棒)

■ 今月の幹事会

出席者：大窪・荻田・樫棒・酒井・佐野・高野・釣井・西野(傍)・矢澤・和田

- 2014年3月、4月活動スケジュールの微調整。
- 澄川の森基本方針を踏まえて確認。
 - ①業務委員会で事業(作業)計画に組み入れる。
 - ②基本計画の進捗状況、問題点を定期的に幹事会で確認する。
 - ③3/19セミナーで会員例会として報告する。
- 2014年度作業計画の確認。
 - ・札幌市都市環境林、支笏湖関係、幌南の森作業計画、当別オイスカ、リンゴ園支援、他。
 - ・研修旅行は目的・行先・時期など幹事担当、酒井と大窪で進める。
- キャリコ購入は「CGCみどりところの基金」に助成申請。
- 森林・山林多面的機能発揮対策の事業進捗報告と今後の事業承認を確認。
- 「ぶんぶんの森覚書」並びに「コンサの森協定書」締結報告と内容の確認。
- 委員会報告
 - ・広報委員会(HPトップ・活動紹介・第11期総会報告の更新、掲載)。
 - ・業務委員会(2014年度活動計画予定の策定)。
 - ・助成委員会(2014年度「森と緑会」並びに「森林/山林多面的機能発揮事業」の申請)。
- その他
 - ・年度会計報告、高額機器購入の確認(折込鋸・ハンディGPS)。
 - ・斎藤リンゴ園支援10周年祝の確認。
 - ・野幌森林公園再生活動連絡会の出席確認。
 - ・東急百貨店労働組合から森林体験学習要請があり、事業内容を確認事とした。

■ 活動履歴

活動日	行事・活動地	参加数	活動内容
1月15日(水)	澄川の森	17	A1区域の整理伐選木と手鋸での伐倒
1月20日(月)	札幌パークホテル	20	北海道社会貢献賞祝賀会
1月22日(水)	澄川の森	10	A1区域の整理伐選木と手鋸での伐倒
1月23日(木)	リンテージプラザ	17	安全講習及びセミナー
1月27日(月)	澄川の森	12	A1区域の整理伐選木と手鋸での伐倒
1月31日(金)	澄川の森	16	A1区域の整理伐選木と手鋸での伐倒
2月4日(火)	幌南小学校大講堂	12	5年生の森林学習講演
2月6日(木)	澄川の森	14	A1区域の整理伐選木と手鋸での伐倒
2月7日(金)	ラルズビル	10	幹事会
2月12日(水)	澄川の森	12	A1区域の整理伐選木と手鋸での伐倒
2月14日(金)	澄川の森	11	A1区域の整理伐選木と手鋸での伐倒